

# 『時事直言』 No.1665 2024年5月2日

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[mail] [info@chokugen.com](mailto:info@chokugen.com)

[X(旧 twitter)] [t\\_masuda2019/](https://twitter.com/t_masuda2019)

[Youtube] 増田俊男チャンネル/

[instagram] [t\\_masuda2019/](https://www.instagram.com/t_masuda2019/)



時事評論家 増田俊男

## 日銀のジレンマ

ドル・円相場が 34 年ぶりの超安値を付けたのに日銀は 4 月 26 日の政策決定会合で何の手も打たなかった。

神田財務官も植田日銀総裁も介入するかどうかははっきりしたことを言わないまま連休に入った 4 月 29 日円はとうとう 160 円まで急落した。

そこで政府・日銀は「覆面介入」をした為円は急騰、154 円まで上げたが、直ぐに 158 円まで下がった。

そこで第二回目の介入をしたと思われ、また一時 153 円まで急騰したが長続きせず、155 円から 156 円とまた元へ戻ろうとしている。

私が常日頃言っているように、政府・日銀がいくら介入しても一時しのぎで、「元の木阿弥」になる。

円高にするにはカンフル剤の介入ではなく追加利上げで日米金利差を縮小するしかない。

日銀はマイナス金利を解除したが、日銀主導で追加利上げをすることは出来ない。

アメリカのインフレが収まらない為 FRB は利下げが出来ず、高水準の金利 5.25-5.50% を継続しなくてはならなくなり、リセッションのリスクが出てきている。

そんな時日銀が追加利上げをしたらアメリカから日本へ投資資金が移動する為リセッションがハードランディングになるリスクが高くなる。

従って日銀は率先してアメリカを不況に追い込むことは出来ない。

昨年からの賃上げと、物価転嫁で日本経済は日銀が望む方向へ向かっているのに追加利上げで経済成長の勢いに水を指したくない。

黒田前総裁が 10 年間量的金融緩和を続行したのに物価がターゲットの 2% に達しなかったのは、日本経済は需給バランスが常にマイナスのデフレ体質だからである。

植田総裁はマイナス金利解除、イールドカーブコントロール廃止、ETF 買い中止等、黒田総裁時代の異常な政策を正常化したが、異常な黒田異次元緩和は維持せざるを得なくなった。デフレ体質下での利上げは日銀にとっても財務省にとっても恐ろしいことである。

だから日銀は追加利上げを棚上げし、首を長くして FRB の利下げ決定を待つしかないのである。

学者の植田総裁になっても日銀は相変わらず FRB 頼りの道を歩むことになる。

私には今後の円相場、ニッケイ平均株価の動向は手に取るように分かっているので、「目からウロコのインターネット増田塾」に参加して国際情勢の真実と株の売り買い値とタイミングを知って大儲けをして下さい。

### 先行受付中！増田俊男の小冊子 Vol.140

『乗るか反るかの日本経済』～ニッケイ平均 5 万円まで急騰か、それとも 3 万円に急落か？～

現在増田俊男の小冊子 Vol. 140 は先行受付中です。

内容は、\*FRB (連邦準備理事会) は毎日薄氷を踏む思い \*アメリカの金融・財政政策が限界に達してきた \*中国経済は何処までごまかし続けられるか \*Scrap & build の突破口 (戦争・復興需要) を競う欧米 \*「漁夫の利」を享受出来るかどうか瀬戸際の日本 \*ニッケイ 5 万円か 3 万円か？ 等です。価格は、1 冊 4,800 円(税・送料別)。詳しいご案内、お申込みについてはマスタ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX : 03-3956-1313、HP : <http://chokugen.com/> ) まで。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、事前にマスタ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX : 03-3956-1313) までお知らせ下さい。